

令和元年度事業報告

夙川さくら保育園

1. はじめに

利用者の状況については、年度当初は乳児クラスに若干名の欠員が生じましたが、6月から定員を満たし在園児数を確保しました。また、在園児の保育時間も長時間化しており、今後も長時間保育を念頭においた環境整備や保護者支援のさらなる充実の重要性を認識しました。

春には、全国的に園児を巻き込む散歩途中の事故が連続して起こったことをきっかけに、園外保育のあり方についてマニュアルの見直しや実地研修を行い、安全第一の園外保育を目指し、常に危機意識を持って出かけました。子どもたちには、交通安全教室をととして共通の認識が得られる体験をしました。

10月からは、幼児教育の無償化が導入されました。幼児クラスでは、保育園での給食費の徴収に伴い、食の安全性と食材の質の維持の大切さを確認し、保護者の方には、保育園での食育の取り組みについて、もう一度興味を持っていただける機会となりました。

子育て支援事業では、新型コロナウイルス感染拡大防止がニュースになると、高いニーズと社会的意義はあるもののキャンセルが相次ぎました。園の行事も規模縮小や延期せざるを得ない状況の中で保育を実施しました。3月初旬には、小中学校の休校要請や保護者の在宅勤務もあり、長期間の登園の自粛をしてくださるご家庭もありましたので、ホームページや電話を活用し、子どもたちに向けてのメッセージを発信して心をつないでいきました。

職員体制では、励まし合える協力体制の確立に向けて、面談と新人事制度から、自身が決めた目標に向かい意欲的に行動していく姿を認め大切にしていけるように、研修や話し合いを重ねました。また、自己評価にも、法人の理念に立ち返る項目を取り入れたことで自分の行動を振り返る機会が増え、認め合いや共感が言動に現れるようになり、土台作りが始まりました。

2. 事業報告

1) 施設を利用される保護者と手を携え、保育園の独自性を活かした施設運営を行います

(ア) 西宮市の待機児解消を受け、乳児クラスの受け入れ人数を引き続き増やします。(昨年度途中より1歳児・2歳児クラスにそれぞれ1名増)園全体として利用率115%、92名(定員80名)の利用を今年度も堅持していきます。

⇒入園前、転居や転勤に伴い辞退者が相次ぎ87名のスタートとなりましたが、6月

からは、利用率115%、92名の利用となりました。

〈利用状況〉

【定員 80名】 予算月平均利用者数 91名 114%

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
0歳	4	4	6	6	6	6
1・2歳	27	27	28	28	28	28
3歳	19	19	19	19	19	19
4・5歳	37	38	39	39	39	39
合計	87	88	92	92	92	92
利用率%	109	110	115	115	115	115

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年度
0歳	6	6	6	6	6	6	6	6
1・2歳	28	28	28	28	28	28	28	27
3歳	19	19	19	19	19	19	19	20
4・5歳	39	39	39	39	39	39	39	38
合計	92	92	92	92	92	92	91.3	91.0
利用率%	115	115	115	115	115	115	114.0	113.6

(イ) 障がい児保育の加配保育士、3歳児の生活支援保育士を配置し、子どもにとってきめ細かい援助をしていきます。

乳児クラスでは、十分に養護の行き届いた環境づくりを工夫します。また、幼児クラスでは集団的な遊びや表現遊び・協同的な活動を工夫し、個の成長と集団としての活動の充実が図られるようにしていきます。

⇒5歳児と4歳児に各障がい児保育の加配保育士、3歳児に生活支援保育士をクラスに配置し、きめ細やかな支援を行いました。

乳児クラスでは、子どもも成長やあそびの内容に合わせ、パーテーションで仕切ること、生活も落ち着き、あそびも一人ひとりに合わせた丁寧な関わりを持つことができました。

幼児クラスでは、クラスの枠を超えて、リズムあそびや体操・うたを一緒に歌う取り組みを重ねる中で、運動会や生活発表会では、堂々と力を発揮していました。

(ウ) 子どもたちの日々の様子を保護者にタイムリーに伝え、信頼を得られるようにします。また、保護者の相談には、きめ細やかに対応していきます。

⇒伝達事項がある時は、保育室のホワイトボードを積極的に活用し、日々の保育を写真に撮りお知らせをしたことで、保護者の方々から保育内容がよくわかると好評でした。感染症発症時は、すぐに発症状況を貼り出しお伝えしたことで、体調不良時の参考にいただき蔓延を防ぎ、早めの受診に結びつきました。

日常の相談は、個人の連絡ノートや送迎時に対応し、個人懇談は、春と秋の2回設け、

- 話しやすい雰囲気を作りだし、子どもの成長や保護者の悩みを共有していきました。
- (エ) 土曜日の空き部屋を保護者交流の場として開放していきます。
- ⇒保護者会の会議やクラス単位でのイベント、地域貢献を含む子育て講座の開催に開放しましたが、今年度は利用がありませんでした。
- (オ) 年末保育のあり方について、安井保育園と共同で保護者アンケートをとるなどして一歩進めて取り組みます。
- ⇒今年度は12月29日が日曜日のため、実施しませんでした。次年度以降について、3園運営委員会で詳細項目の検討を進めていきたいです。

2) 保育の質向上のために

- (ア) 正規保育士を一名増やして保育の充実を図ります。
- ⇒正規保育士を乳児クラスに配置したことで、時差勤務体制の中でも正規のクラス担任がいる時間が増え、丁寧な保護者対応や、落ち着いたクラスの雰囲気を保つことができました。
- (イ) 職員の心身の健康保持のため、事務等を簡素化し、事務時間の軽減を図ります。
- ⇒クラス担任間で話し合い、要点をあげることで、書類作成に取りかかる時間を短縮しました。また、過去の日案や行事計画のデータを活用し、必要でない資料作成は取りやめ無駄をはぶきました。主任やパート保育士が交代でクラス保育に入り、事務をする時間がとれるようにしました。
- 年度末には、各種書類の用紙の簡素化に向け検討し、改善しました。
- 西宮市の助成で保育補助員を配置し清掃や環境整備を行うことで、保育士の仕事の軽減につなげました。
- (ウ) 「保育指導日」を中心に、園内研修を充実させていきます。3園合同の研修会を年間に位置付けて、共に学び・育ちあえる仕組みを作っていきます。
- キャリアパス加算を維持できるように外部研修を積極的に受講し、研修内容を職員間で共有していきます。
- ⇒外部からの講師を招き、指導を受けたことで、課題を見出す指導の中で、専門的な助言をいただき、大きな学びとなりました。
- 研修や学び合いから保育の質の向上につながる意見や情報の交換を活発にしたことで、3園の職員が一緒に学ぶ機会も設けました。
- (エ) 自己評価とヒアリングを前期・後期に分けて実施し、円滑な職場環境作りや人材育成に反映させます。
- ⇒悩みごとやつまずいていることにもじっくり聞く姿勢を示し、各職員に認めの声掛けを意識していきました。職員の提案を反映させることで、チーム保育を通して、認め合える環境の土台作りを目指しました。

3) 地域子育て支援及び地域との交流

- (ア) 地域子育て支援担当者が中心になり、体験保育、子育て教室、園庭開放、園内行事への参加、絵本の読み聞かせなどの実施し、定期的に子育て情報をホームページに掲載する等アピールを行います。

⇒園舎外掲示板に行事案内を貼り出し、園庭開放に参加した保護者に子育てだよりを配布しました。ホームページには、保育園の様子を発信しました。地域の方が園庭開放の利用をきっかけに一時保育に興味を持たれて、ご利用につながりました。

(イ) 保育園の栄養士・看護師・保育士が専門性を活かし、積極的に育児講座に関わり、地域の子育てに貢献していきます。

⇒専門性を生かし親子で実体験していただいたことで、子育ての楽しさを伝えていきました。参加者が、園庭開放や一時保育の利用、入園の候補になることにもつながっていきました。

(ウ) 昨年度より、入会した青少年愛護協議会の場を活用し、保育園が地域に根付くように、本園の方針や取り組みをアピールしていきます。また、夕涼み会、地域合同避難訓練などに地域の方に参加して頂き、協力や理解を得るようにしていきます。

⇒保育園の取り組みや子育て支援の協力関係が築けるように発信していきました。行事前には近隣に手紙を配布し理解や参加を呼びかけました。夕涼み会や合同避難訓練では、地域の方の参加もあり、交流する場となりました。

子育て支援事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
育児相談	5	2	2	2	1	2
体験保育	0	0	1組 3名	0	0	1組 3名
短期体験保育	0	0	0	0	0	2組 6名
子育て教室	0	0	0	8組 16名	0	9組 18名
育児講座	0	0	9組 18名	0	0	9組 18名
子育て情報誌	200	0	200	0	200	0
園庭開放	24	30	64	71	0	16

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
育児相談	5	2	4	3	1	0	29件
体験保育	0	1組 3名	0	0	0	0	3組 9名
短期体験保育	3組 6名	0	3組 6名	0	0	0	8組 18名
子育て教室	0	9組 18名	0	0	6組 12名	0	32組 64名
育児講座	6組 12名	7組 14名	6組 12名	4組 8名	6組 12名	0	47組 94名
子育て情報誌	200	0	200	0	200	0	1200部
園庭開放	20	43	39	19	20	0	346名

子育て教室 7月 七夕 12月 クリスマス 2月 節分
 育児講座 6月 歯みがき 6月 砂・どろんこあそび 9月 感触あそび
 10月 ふれあい遊び 11月 ミニ試食会 12月 作って遊ぼう
 1月 簡単親子クッキング 2月 絵本の楽しみ方

4) 安心・安全・快適な環境づくり

(ア) 備品の補充を行い、さらに子どもの保育・生活環境整備を行っていきます。

⇒乳児クラスには、ままごと用の流し台とレンジ台を、幼児クラスには、子どもの興味関心が高い絵本を補充したことにより、友だち同士で共通のあそびを楽しみ、関わりが増えました。

(イ) 毎月、避難訓練を計画し、消火訓練・不審者・地震対応の訓練を複数回入れ、あらゆる場面を想定した実効的な訓練を実施します。

災害時の備蓄品を防災担当者が中心になって管理し、充足を図ります。

⇒消防士と法人防災担当者の立ち合いのもと、避難訓練を実施したことで、今までと違った目線を見て課題も見つかり、全職員で子どもの命を守ることと同時に初期消火の大切さも改めて実感し、全職員の共通認識となりました。

倉庫内の災害用備蓄品の品目や数の確認は行っていましたが、保管場所の定位置の決定までにはいたりませんでした。再度保管場所の検討をしていきます。

(ウ) 常に危機意識をもち、安全への配慮ができるようにします。

毎月、全職員が順番に安全点検を行い、速やかに安全、且つ快適な環境を整えていきます。

⇒安全点検後、不具合があった場合、直ちに確認し早急に修理を依頼して安心安全に過ごせるように努めました。

(エ) 検討委員会（保健衛生・事故発生）で事故防止の徹底化を図り、職員にあらゆる場面を想定した研修を行い、マニュアル（乳幼児突然死症候群（SIDS）・アレルギー除去対応誤食など）の周知をしていきます。

⇒AEDの研修を法人管理部長、アレルギー対応研修では栄養士、突然死症候群（SIDS）についての疑問や質問は保健師の指導のもと実施しました。各種マニュアルの読み合わせも定期的に行い、常に最新の情報を周知していきました。

(オ) 「ヒヤリハット」を日誌に記載して、事故防止委員会を中心に職員全体で共有することで事故防止の徹底化を図ります。

⇒職員会議の時に共通認識をして防止に努めました。大きな事故が発生した場合は、その都度会議を設け、全職員で対策を考えていく機会をつくり実践していきました。

(カ) 地域の避難所としての機能を整えていきます。（非常食の準備等）

⇒非常食は、栄養士とともに、保管場所や品目を写真にしてわかりやすく掲示し、全職員に周知しました。消費期限も把握できるように一覧表にまとめました。消費期限が間近な物は、入れ替えを行いました。

5) 一時預かり事業

(ア) 一時預かり事業は定員8名とします。保育士を2名配置し、年間利用者数は1600名以上を目標とします。

⇒3月、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、キャンセルがありました。

新規の面接や慣らし保育も見合わせましたこともあり、目標には届きませんでした。

(イ) 一時保育の質を向上させるとことや事業内容充実のために担当者の研修と備品の整備を実施します。

⇒安井保育園の担当者研修や情報交換をしました。積極的に散歩にでかけたり、子どもの発達にあった手作り玩具の提供、季節や行事に沿った制作を取り入れ、保育の独

自性を出し内容の充実を図ったことで、保護者から喜ばれました。

<一時預かり保育 利用状況>

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
0歳	0	0	0	0	5	1
1歳	28	32	41	34	20	35
2歳	92	90	87	99	71	88
3.4.5歳	14	8	8	15	13	12
合計	134	130	136	148	109	136

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度合計
0歳	4	11	16	26	23	22	108	236
1歳	39	39	42	29	37	16	392	839
2歳	93	95	80	74	62	55	986	412
3.4.5歳	4	0	4	0	0	3	81	165
合計	140	145	142	129	122	96	1567	1652